

第17章 西ノ原遺跡の調査

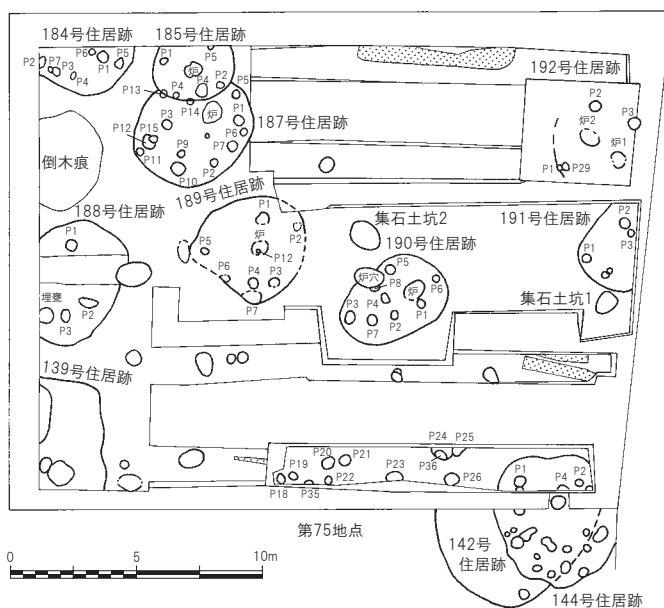
I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2015年

11月現在で168地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210軒を超す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第64図 西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)、第150地点遺構配置図(1/300)

II 西ノ原遺跡第150地点(旭1-14-19)

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2012年6月26日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。調査地は同年1月23日から2月16日に試掘調査を実施済みであり、試掘調査の概要については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第12集『市内遺跡群11』2014.3で報告済みである。本書では個人住宅建設に伴う本調査の成果について報告する。

本調査は同年6月26日から27日まで行った。地点番号については、試掘調査時と同じとしたため、民間開発に伴う宅地造成の本調査とも同一地点名となった。

(2) 遺構と遺物

【192号住居跡】192号住居跡に伴う可能性があるピット4基と炉跡2ヶ所を検出した。192号住居跡は掘り込みが浅く、今回の調査では掘り込みを確認出来なかった。ピットの詳細は第56表のとおりである。

【炉】炉は2ヶ所検出した。炉1は南北62×東西52cm、深さ10cmの浅い皿状ピット中央に土器破片が残る。

炉2は東西78×南北48cm、深さ24cmの浅い楕

円形ピット西寄りに土器が埋設され、中央部の底部42×22cmの範囲が赤化している。

【出土遺物】(第75図84～89)

84は、炉1の中より出土した曽利系。胴部1/4ほど残存し、復元実測をした。口径推定25.5cm。加熱をうけたらしく非常に脆い。器面全体の条線は半截竹管工具による2本の平行沈線を縦位に施文したものの。工具は幅8mmを半截したもので、半截部は鋭く尖らせてある。括部より上位は2段階にわたって施され、胴部は重ねて密に施されている。頸部には粘土紐を一周貼付け、交互刺突を施す。胴部の懸垂文は粘土紐を貼付け竹管の背を押圧したもの。懸垂文は、復元した図から判断すると6単位になろう。

85は、炉2に使われた炉体土器。攪乱により半分欠落、残存1/2。色調黄褐色で、胎土は精鍊され密である。複節LRLの縄文を施文した後、懸垂文を施文。懸垂文は数度に渡って幅1cm弱の二本の浅い沈線で区画し、その間を磨消し研磨による。

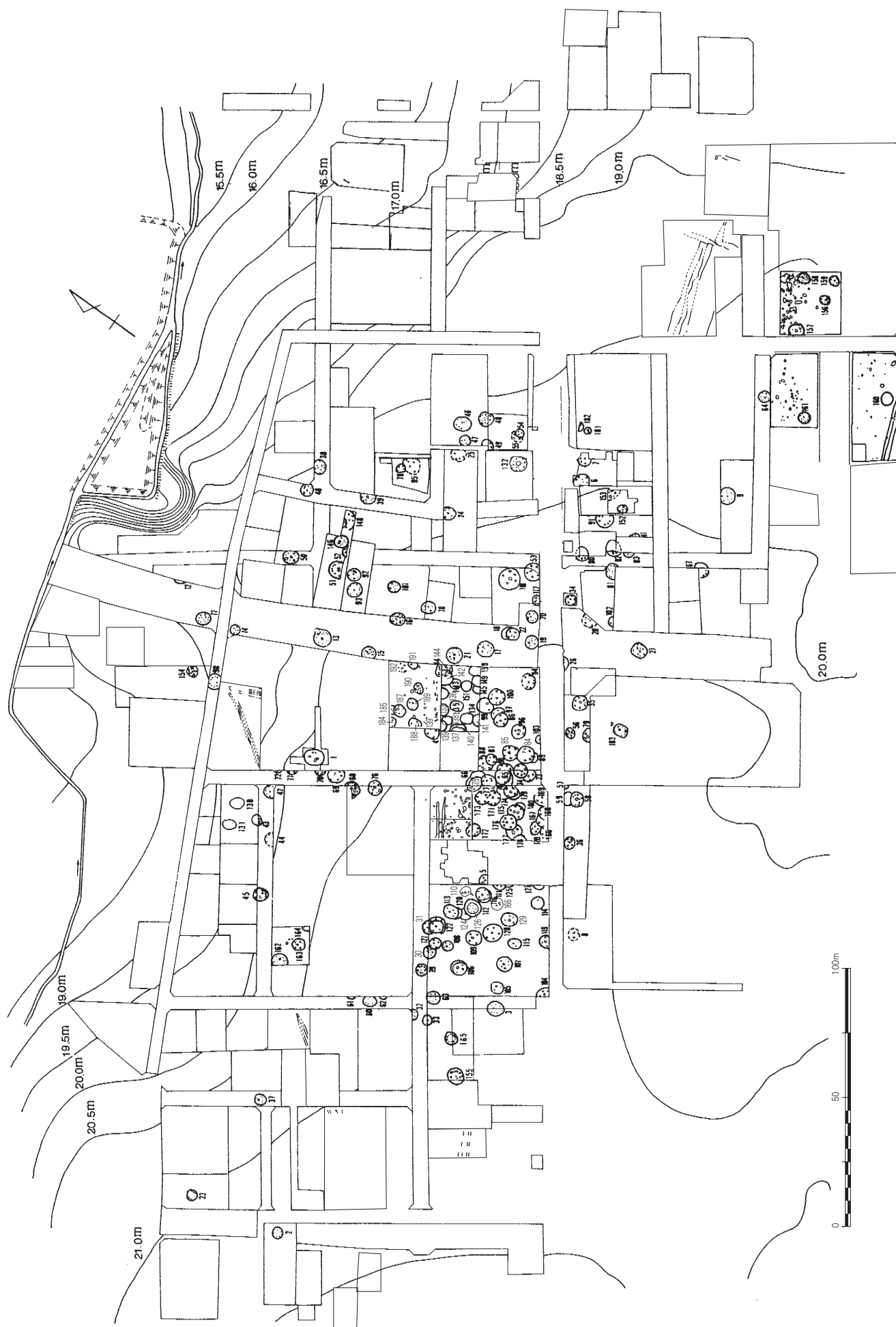
86・87は炉2の覆土から出土した。86はRLの単節を縦回転して施文した後、幅7mmの竹管で区画し、その間を磨消し、縄文地に蛇行懸垂文を施したもの。

第49表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
150	旭一丁目14-5-6	(2012.1.23～2.16)2012.2.20～3.4	108	宅地造成	縄文中期住居跡12、集石土坑2、土坑2、ピット36、縄文土器・石器	市11
	旭1-14-17	(2012.1.23～2.26)2013.7.1～26	111	個人住宅	H24.1～2月試掘済、地表面下40～50cmで縄文中期住居跡3、土坑1、ピット1	市15
	旭1-14-18	2013.1.23～2.14	111	個人住宅	縄文中期住居跡9、風倒木痕1、縄文中期土器・石器コンテナ14箱	市15
	旭1-14-19	2012.6.26～27	107	個人住宅	縄文中期住居跡1、縄文土器・石器	市15
151	旭1-14-1	(2012.1.25～2.7)	467	分譲住宅	溝5、縄文土器片	市14
152	苗間1-12-3	(2012.1.27～31)	324	分譲住宅	遺構遺物なし	市14
153	旭1-6-2の一部、1-6-4・5	(2012.5.28～30)	951	共同住宅	縄文中期住居跡1、縄文土器・石器	市15
154	苗間1-2-2-2-3	(2011.10.24～28)	846	共同住宅	遺構なし、縄文土器片	市14
155	旭1-13-3、25	(2013.10.22)	234	分譲住宅	地表面から1.7m掘削するも確認面まで達せず、遺構遺物なし	未報告
156	旭1-17-1、17-2	(2013.11.27～12.9)	2,345.1	店舗・工場	縄文住居跡床面確認、遺存状態悪く本調査不可	未報告
157	旭1-6-3	(2013.12.9～17)	602	分譲住宅	時期不明溝2	未報告
158	旭1-15-6の一部	(2014.1.7～14)	739	共同住宅	縄文時代住居跡12軒検出、要本調査	未報告
159	旭1-15-8	(2014.1.30～2.10)2014.3.4～25、4.2～5.9	869	共同住宅	縄文時代住居跡9(プラン。炉・ピットのみの検出含む)	未報告
160	旭1-14-2	(2014.4.15～16)	309	駐車場造成	遺構なし、縄文土器・石器	未報告
161	旭1-15-18	(2014.6.17)2014.6.18～23	442	個人住宅	縄文時代中期住居跡2、溝1	未報告
162	苗間1-13-2～5-11	(2014.8.29、9.4)	2,526.76	葬祭場	溝1(時期不明、中近世以降)	未報告
163	旭1-7-10	(2015.2.2～3)	148.98	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
164	苗間1-15-8	(2015.5.8～18)	647	駐車場	住居跡1、屋外埋蔵1、土坑9、ピット1、縄文土器、石器	未報告
165	旭1-12-1	(2015.9.30)	160	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
166	旭1-13-1・17-18	(2015.11.5)	212.01	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
167	旭1-8-1	(2015.11.9-10)	349	アスファルト造成	遺構遺物なし	未報告
168	旭1-13-20-23	(2013.10.21)	76.8	店舗	遺構遺物なし	未報告

第50表 西ノ原遺跡住居跡一覧表

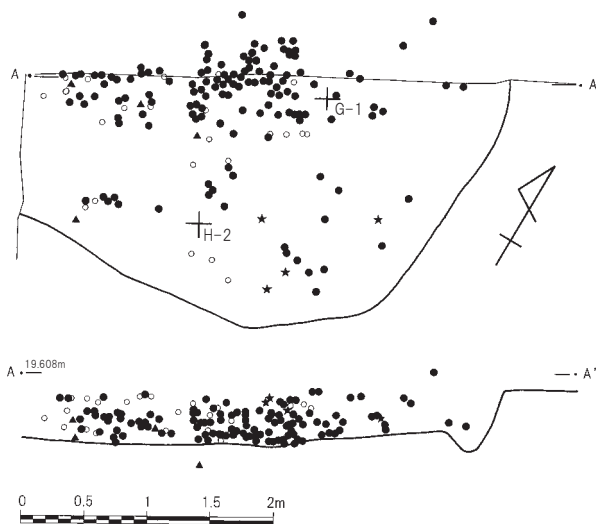
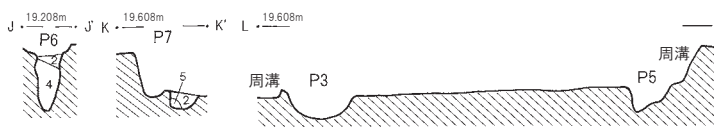
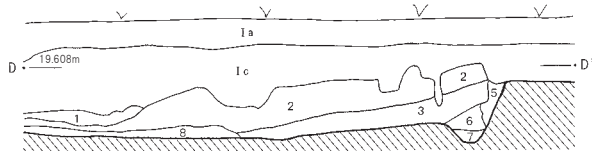
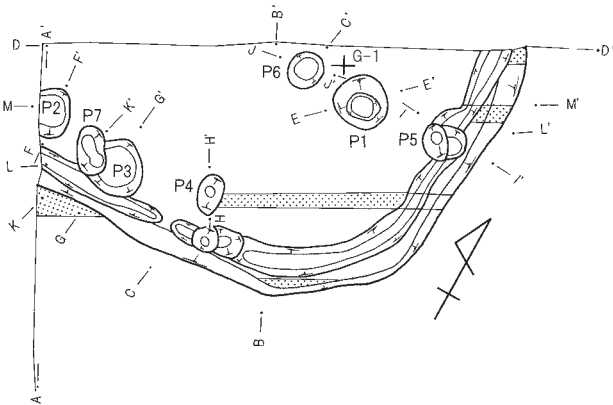
住居番号	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉	埋蔵	拡張	壁溝	備考	時期	文献	住居番号	調査率	平面形 ()は推定	規模	炉	埋蔵	拡張	壁溝	備考	時期	文献
139	55%	不明	(546)×不明	○	○			138号と複合		調13集	166	10%	不明	不明	○				削平著しい炉・ピットのみ検出	EⅡ中	調13集
140	40%	楕円形	(762)×不明	○				137・138号と複合		調13集											
141	55%	不明	528×不明	○				134号と複合		調13集											
142	50%	不明	不明	○				143・144号と複合		調13集	167	55%	(円形)	不明					168・170住と複合	EⅡ	調18集
143	完掘	楕円形	479×421		○		建替	○ 142・151号と複合		調13集	168	45%	隅丸方形	不明		未掘		有	○ 167住に切られる	EⅠ新	調18集
144	90%	(隅丸長方形)	595×430×40	○	○		有	142号と複合	勝Ⅲ新	調13・市14	169	30%	円形	不明	○				南・東未発掘		調18集
145	60%	不明	不明×325	○				149・151号と複合		調13集	170	60%	(円形)	不明×496	○				167住を切る	EⅢ	調18集
146	85%	楕円形	585×?	○			有	炉穴群と複合	EⅡ	調17集	171	完掘	不整形円形	554×595				有	○ 173住を切る	EⅡ	調18集
147	30%	楕円形	?×?		未掘		○	148号と複合	EⅡ	町Ⅴ	172	52%	円形	不明×472		未掘				EⅠ古	調18集
148	完掘	楕円形	不明	○				147号と複合	EⅡ	町Ⅴ	173	完掘	円形	485×492	○			有	171住に切られる	EⅠ新	調18集
149	90%	(楕円形)	430×336		○	○		145・150号と複合	EⅡ新	調13集	174	90%	楕円形	612×?	○				179住と複合	EⅡ古	調18集
150	80%	(円形)	581×不明					149・151号と複合	調13集	調13集	175	完掘	楕円形	640×630	○			有	○ 176住に切られる	EⅡ	調18集
151	95%	(楕円形)	664×(642)		○	○		143・145・150号と複合	EⅡ古	調13集	176	完掘	隅丸方形	690×535	○	○	2回拡張	○ 175・177住と複合	EⅠ古	調18集	
152	95%	円形	380×370	○				153号と複合	EⅡ	町Ⅵ	177	95%	楕円形	624×不明			○	不明	176住を切る	EⅡ	調18集
153	20%	(円形)	-600	○				152号と複合	EⅡ新	町Ⅵ	178	10%	隅丸方形	不明		未掘		有	○ 177住と複合	EⅠ新	調18集
154	完掘	不明	(400)	○			有	床面まで削平	勝Ⅲ	町Ⅶ	179	95%	楕円形	385×392			○	174住を切る	EⅡ	調18集	
155	75%	隅丸方形	610×540	②	②		建替と拡張	○ 2回拡張・建替	勝Ⅲ新・EⅠ新式古	町Ⅷ	180	完掘	円形	340×298	○				削平著しい	EⅡ	調18集
156	完掘	円形	462×365×14	○					EⅡ新	調17集	181	完掘	不整形円形	320×298	○				削平著しい	EⅡ	調18集
157	75%	楕円形	594×392×22	○					EⅡ	調17集	182	45%	(円形)	不明×390		○				EⅡ	調18集
158	完掘	不定形	669×455×16		○				EⅡ新	調17集	183	完掘	隅丸方形	450×370	○	○				EⅠ新	市3
159	完掘	円形	434×415×13	○?					EⅡ	調17集	184	25%	(隅丸方形)	(337×225)						EⅡ	市15
160	完掘	円形	547×490×35		○?	②			EⅡ	調17集	185	80%	(円形)	320×(224)			○		187住と複合	EⅡ	市15
161	完掘	楕円形	512×440×16		○	○?			EⅡ中～新	調17集	186	欠番									
162	75%	隅丸方形	715×?	③	○	2回拡張	○		EⅡ	調17集	187	完掘	楕円形	480×430			○	○	185住と複合	EⅠ新	市15
163	完掘	楕円形	505×482	○	○	有	○	脂肪酸分析実施	勝Ⅲ	町Ⅷ	188	50%	楕円形	(517×430)	○	○			東側一部調査区域外	EⅡ	市15
164	20%	隅丸方形	不明		未掘				EⅡ新	町Ⅷ	189	完掘	楕円形	452×400	○					EⅡ	市15
165	完掘	卵形	498×488	②	○		建替	○ 他地域系多い	EⅠ新式古	町Ⅷ	190	完掘	楕円形	436×302	○					EⅢ	市11
											191	50%	(円形)	(392×220)			○			EⅢ	市11
											192						○		掘り込み確認できず	EⅢ	市15



第65図 西ノ原遺跡遺構分布図 (1/2,000)

87 は、4 本以上の櫛歯状工具で集合条線を施したもの。胎土は 85 に類似し、よく精練され密である。内面の研磨が横方向に著しい。浅鉢形土器になろう。88 は、覆土から出土した土器。底部近くの破片。内面に煤が付着し、黒褐色。外面の地文は LR の単節を縦回転し、黄褐色。

89 は、石器である。詳細については第 58 表を参照。



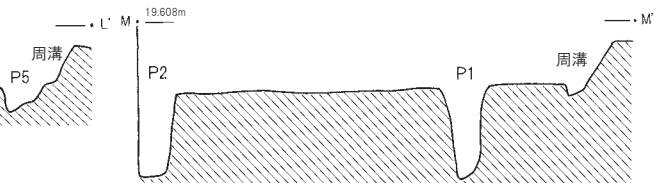
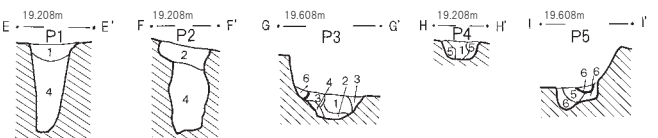
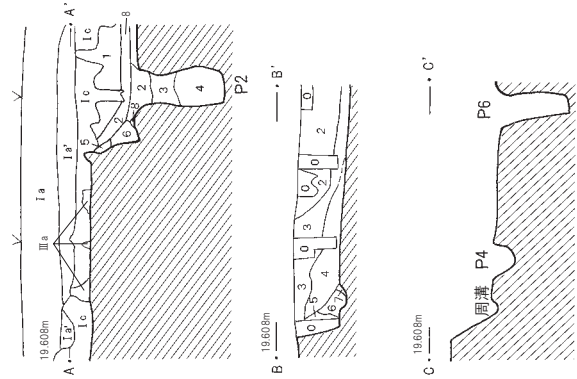
P1・2・6

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く含む
2. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に 1 ～ 3cm ロームブロックやや多く含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、1 ～ 3cm ロームブロックやや多く含む
4. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く含む

III 西ノ原遺跡第 150 地点 (旭 1 - 14 - 18)

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 1 月 7 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。調査地は 2012 年 1 月 23 日から 2 月 16 日に試掘調査を実施済みであり、試掘調査の概要については、ふじみ野市埋蔵文



I a. 黒褐色土 締り強、粘性有、現代の盛土、5cm 以下ロームブロック多く含む

I a' . 白色砂礫層

I b. 黒褐色土 締り強、粘性有、現代の盛土、5mm 以下ソフト質ローム粒少し含む

I c. 黒褐色土 締り強、粘性有、現代の耕作土、1 ～ 12cm の大形の暗褐色土ブロック多く、2 ～ 10mm ロームブロック・粒少し含む

III a. 暗褐色土 (自然堆積層)

184 号住居跡

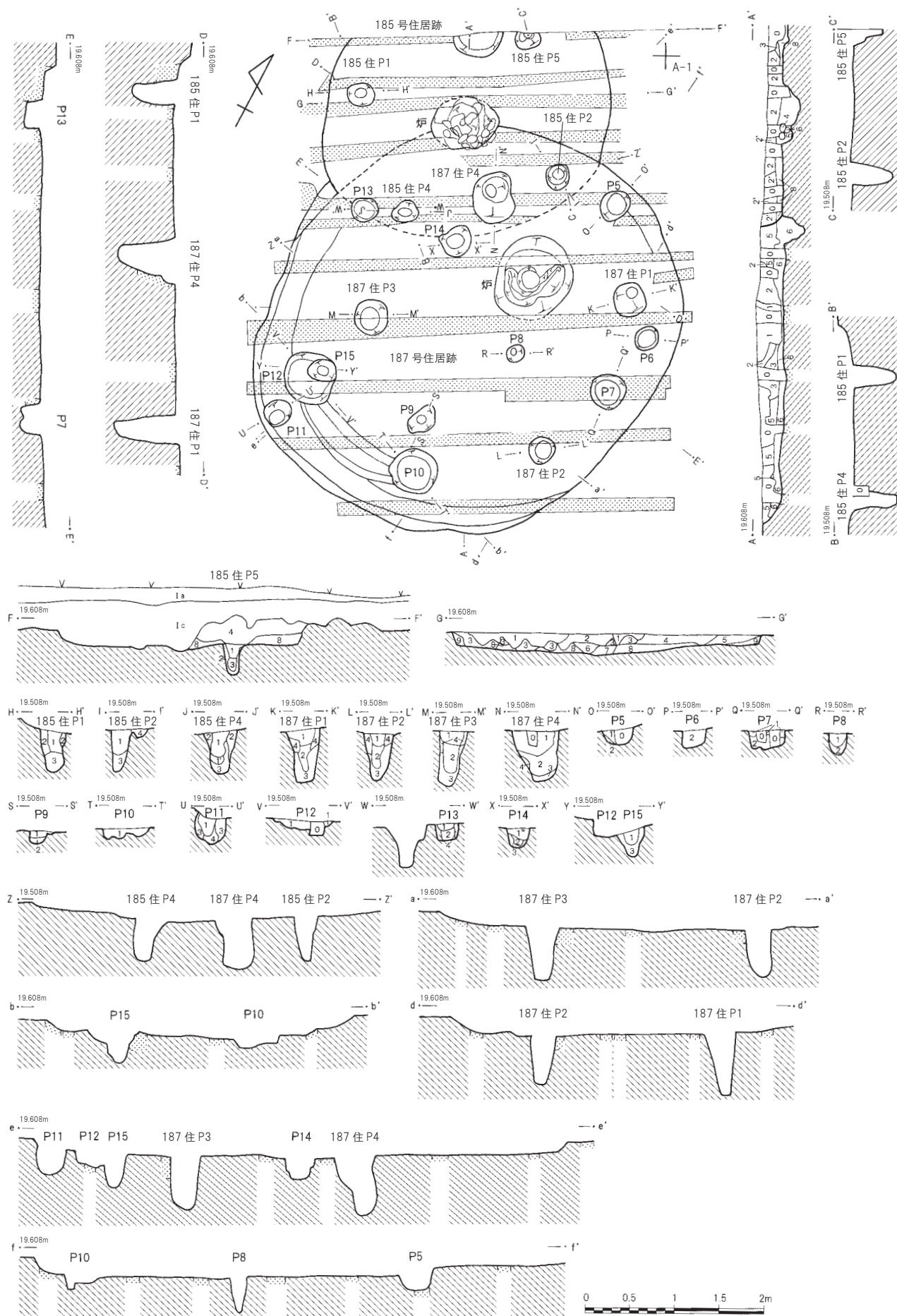
0. 攪乱

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、被熱して硬化、5mm 以下ローム粒やや多く、3mm 以下焼土・炭化物少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、被熱して硬化、3mm 以下ローム粒やや多く、5mm 以下焼土・3mm 以下炭化物少し含む、1 層よりローム粒多く色調明るめ
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、被熱して硬化、5mm 以下ローム粒やや多く、3mm 以下焼土・炭化物少し含む、2 層よりローム粒多く色調明るめ
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3 層より色調暗め、2mm 以下ローム粒やや多く、2mm 以下炭化物少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、1cm 大ロームブロック・3mm 以下ローム粒・2mm 以下焼土少し含む、周溝覆土
7. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に 2cm 以下ロームブロック多く含む、周溝の覆土、ローム粒は少ない
8. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に 2cm 以下ロームブロック・3mm 以下ローム粒多く、1cm 以下焼土少し含む

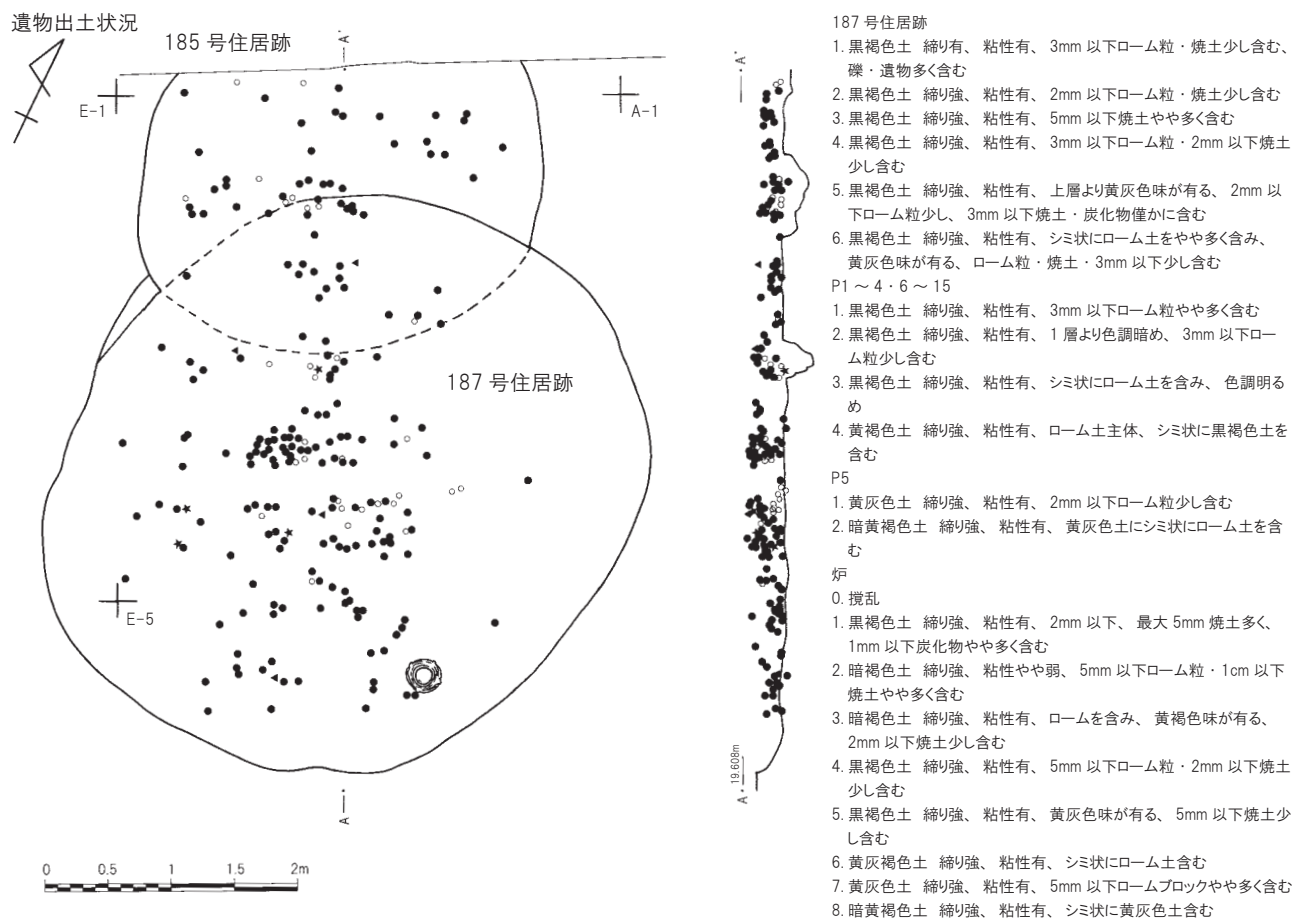
P3 ～ 5・7

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、2cm 大ロームブロック多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く含む
4. 黄灰色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒多く含む
5. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に 3cm 以下ロームブロック多く含む
6. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、黄灰色土・黒褐色土が貫入する

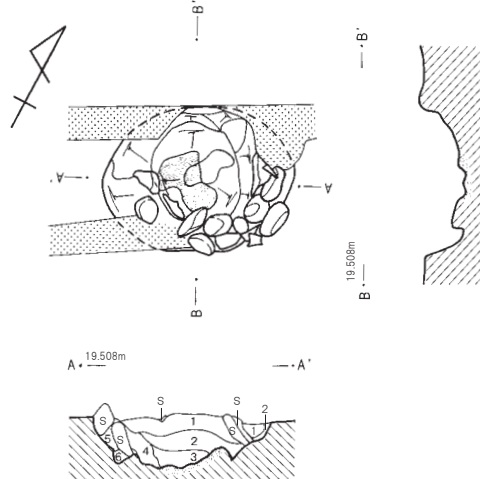
第 66 図 西ノ原遺跡第 150 地点 184 号住居跡・遺物出土状況 (1/60)



第67図 西ノ原遺跡第150地点185・187号住居跡 (1/60)



185号住居跡・炉



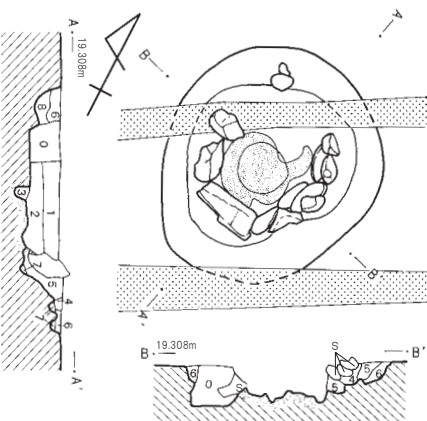
185号住居跡

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土粒少し含む、シミ状に黒色土を含み、攪乱気味
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
- 2'. 黒褐色土 締り有、粘性有、2層より締り強く、ローム粒多めに含む
3. 黄灰色土 締り強、粘性有、明黄褐色の3mm以下ローム粒やや多く、2mm以下焼土・炭化物僅かに含む
4. 黄灰色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒少し、1mm以下炭化物僅かに含む
5. 黄灰色土 締り強、粘性有、上層より黄色味強く、1mm以下ローム粒・3mm大焼土僅かに含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、3mm以下焼土少し含む、ロームは被熱している
7. 黄灰色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く含む
8. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体でシミ状に黄灰色土や3mm以下ローム粒が多く混ざる

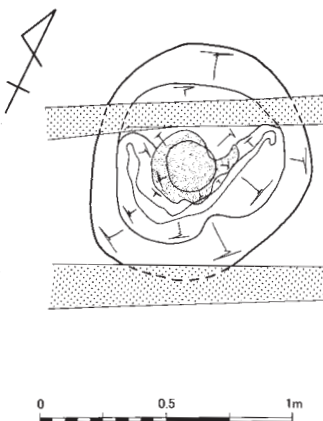
炉

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒・3mm以下焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、上層より黒色味有り、3mm以下ローム粒・5mm以下焼土やや多く含む

187号住居跡・炉

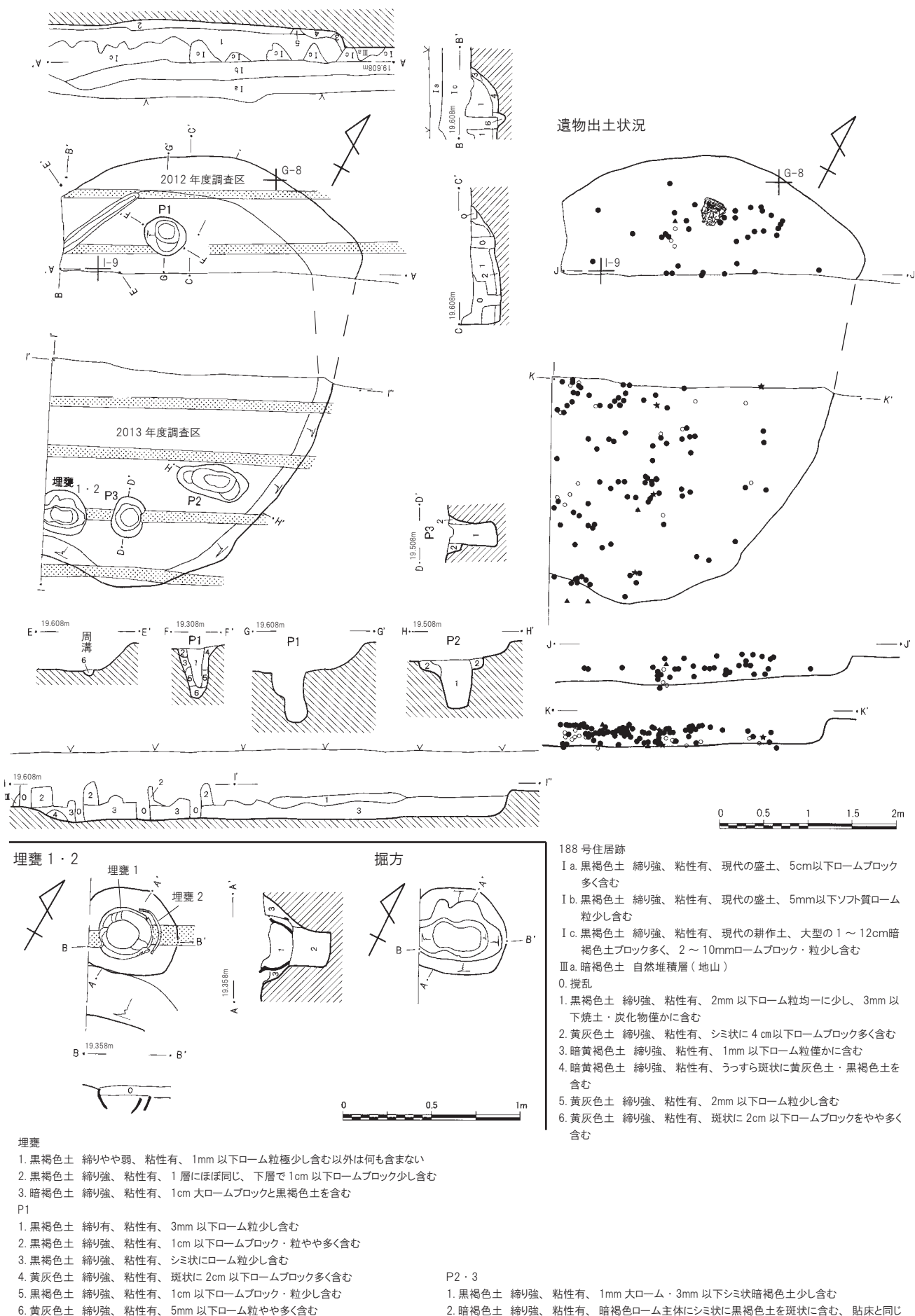


掘方



3. 黒褐色土 締り有、粘性有、上層より黒色味有り、3mm以下ローム粒多く、5mm大焼土やや多く含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に5mm以下ローム粒多く含む、黄灰色味が有る、3mm以下焼土少し含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒5～15mmロームブロックやや多く含む、石の背面の充填土
 6. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土とローム土が混ざる、石の背面の充填土
- P1・2・4・5
1. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む
 - 1'. 1層より黒色味が有り、ローム粒少なめ
 2. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土・3mm以下ローム粒多く含む
 3. 黄灰色土 締り強、粘性有、1層よりローム粒多く含む、色調明るめ
 4. シミ状黄灰色土
- P3
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1層より色調暗め、3mm以下ローム粒少し含む
 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土を含み、色調明るめ
 4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、シミ状に黒褐色土を含む

第68図 西ノ原遺跡第150地点 185・187号住居跡・遺物出土状況 (1/60)、185号住居跡炉・掘方 (1/30)



第69図 西ノ原遺跡第150地点188号住居跡・遺物出土状況(1/60)、埋葬・掘方(1/30)

化財調査報告第12集『市内遺跡群11』2014.3で報告済みである。本書では個人住宅建設に伴う本調査の成果について報告する。

本調査は2013年1月23日から2月14日まで行った。地点番号については、試掘調査時と同じとしたため、民間開発に伴う宅地造成の本調査とも同一地点名となった。

(2) 遺構と遺物

① 184号住居跡

【位置】調査区北西端に位置し、住居の北半分以上が調査区域外になる。炉跡は検出できなかった。0.8 m 東に185号住居跡、1.2 m 東に187号住居跡、5.0 m 南に188号住居跡がある。

【規模・形状】検出した部分は住居跡の南東部分で東西3.4 m、南北2.3 mである。隅丸方形を呈すると思われる。確認面からの深さは42 cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

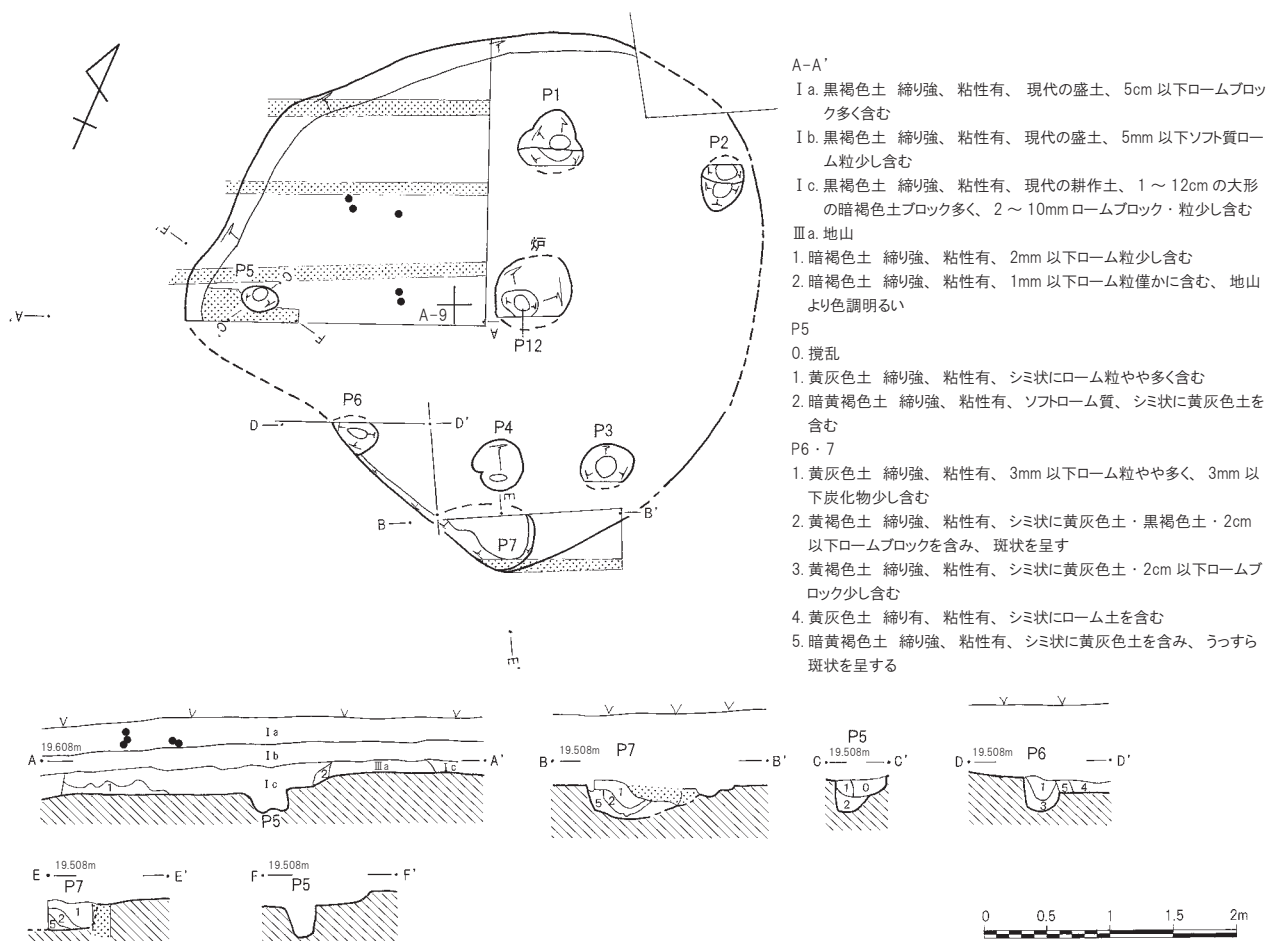
【柱穴・周溝】ピットは7基検出し、P1、P2が主柱穴となる。P6も建て替えなどの柱穴となる。周溝は壁際に巡る。幅12～24 cm、下幅6～12 cm、深さ8

～18 cmである。ピットの詳細は第51表のとおりである。

【遺物出土状況・時期】中央付近に多く出土している。出土遺物から時期は加曽利E I 新期。

【出土遺物】(第72・73図1～22)

1は、曽利系の土器。胴下部・底部欠落。口縁部一部欠損しているが、胴部は全周する。口径35.3 cm、胴括部径27.3 cm。頸部括れ部に幅1～1.5、長さ2.5～3 cmの瘤状の突起を等間隔に7個(1個は推定)を貼付け、その間を3本の沈線で杵状に施し、さらにその直下に2本の沈線を全周させた後、最下段の全周沈線から「コ」の字状に懸垂文を付けている。胴下半部には、珍しいことに、地文としてRIの単節の燃糸文と半截竹管による2本単位の条線が引かれている。その範囲は展開図に示した。また展開図に示したとおり、「コ」の間隔幅が狭いものと広いものの2種がある。広いものは3つ、狭いものは2つである。さらに蛇行懸垂文は広い間隔に2本と1本、狭い間隔に1本となる。文様の施文順序は、頸部突起の貼付→地文(燃糸文→条線)→沈線(突起間の杵状文→頸部2条



第70図 西ノ原遺跡第150地点189号住居跡・遺物出土状況(1/60)

3は、底部破片。底径9.0 cm、2/3が現存。縄文LRLの複節。半截竹管による平行沈線で蛇行懸垂文と2本の垂直懸垂文で構成される。懸垂文間には磨消し

4～6は、加曽利EⅠ式のキャリパー形土器(横位渦巻文)の口縁部破片で。隆帯を貼付けたもの。4の地文は、RLの単節。5はLrの無節。6はLRの単節。7～12は同じく胴部と底部の破片。7は半截竹管の工具で懸垂文を蒲鉾状に縦に施文。RLの単節。8は4本の沈線の懸垂文。RLの単節。9～10は隆帯による懸垂文。9は8～9本単位とする条線を地文。10は1本の隆帯で蛇行懸垂文と直線懸垂文を施したもの。11は2本単位の隆帯で直線懸垂文、1本の隆帯で蛇行懸垂文を交互に施文したもの。12～14は大きな無文の口縁部の曽利系の土器。12は口唇部が平坦に整形され、括部に3本の沈線を施文。13・14は括部の破片、13は地文LRの単節を施文した後、3本単位の直線懸垂文、1本の蛇行懸垂文を施文し、括れ



第51表 西ノ原遺跡第150地点184号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	円形	43×40	17×16	72.4	
P2	不明	36×25	25×21	73.2	
P3	(円形)	47×46	32×31	20.2	
P4	楕円形	32×18	10×7	17.2	
P5	楕円形	35×28	10×8	21.9	
P6	円形	29×26	19×16	55.0	
P7	楕円形	48×22	26×10	20.7	

第52表 西ノ原遺跡第150地点185号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	円形	31×26	14×11	55.8	
P2	円形	28×25	14×12	46.0	
P3					187号住居P4
P4	円形	28×24	17×8	50.4	
P5	不明	27×(17)	8×(4)	33.3	

第53表 西ノ原遺跡第150地点187号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	円形	37×36	12×11	73.3	
P2	円形	30×29	18×17	54.8	
P3	円形	39×37	24×21	61.1	
P4	方形	52×46	18×18	66.0	
P5	円形	37×32	21×21	17.4	
P6	円形	29×25	22×18	25.6	
P7	円形	39×38	28×27	21.4	
P8	円形	22×18	9×6	42.8	
P9	楕円形	39×25	9×8	17.5	
P10	円形	50×(35)	38×(27)	13.4	
P11	不明	(29)×27	17×14	31.6	
P12	円形	56×56	(24)×(18)	14.9	
P13	円形	30×25	22×18	15.3	
P14	円形	35×29	18×17	26.8	
P15	円形	33×24	13×10	37.4	

第54表 西ノ原遺跡第150地点188号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	円形	49×41	20×16	61.9	12年度
P2	楕円形	80×38	29×13	60.1	13年度
P3	楕円形	45×34	20×19	59.5	13年度

第55表 西ノ原遺跡第150地点189号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	不明	49×(43)	14×12	36.9	
P2	(円形)	(36)×34	16×12	25.0	
P3	(円形)	41×(31)	16×15	26.8	
P4	(円形)	43×42	15×5	35.0	
P5	方形	24×20	11×10	27.1	
P6	不明	(35)×(25)	19×(7)	26.4	
P7	不明	(73)×(44)	(67)×(28)	25.1	

第56表 西ノ原遺跡第150地点192号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	円形	34×28	20×15	12.2	
P2	円形	41×40	31×24	10.6	
P3	円形	45×41	18×18	31.4	
P29	円形	37×30	16×14	15.3	

境に3本の沈線を横位に施文した順序がうかがわれる。14は括れ部に2本単位の蛇行隆帯を貼り付けたもので、地文はR1の撚糸文。15は地文に7～8本単位の櫛歯状工具による条線を全面に施し、2本単位の隆帯で文様を施文したもので、勝坂系の土器であろう。16と17は、浅鉢形土器。両者とも胎土はよく精錬され、細かい石英を含み、接合しないが同一個体と思われる。内面は、横位方向にヘラによる研磨が著しい。17は隆帯による突出渦巻文と沈線で区画文を施文。区画文の中に幅4mmの半截竹管による平行沈線が施文。

18は、単節LRを施文した土器片を打ち欠き、図示した矢印範囲の突起を研磨した円盤状土製品。3.2×3.0cmのほぼ円形。重量19.0g。

19～22は、石器である。詳細については第58表を参照。(笹森健一)

② 185号住居跡

【位置】調査区北西部に位置し、住居の北側が調査区域外になる。187号住居跡と南側で重複し、土層観察により本住居の方が新しい。0.8m西に184号住居跡、5.8m南に188号住居跡、4.2m南東に189号住居跡がある。

【規模・形状】検出した部分は住居跡の南部分で東西3.2m、南北2.3mである。円形を呈すると思われる。確認面からの深さは25cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。187号住居跡の埋没後に覆土を掘り込んで構築されている。

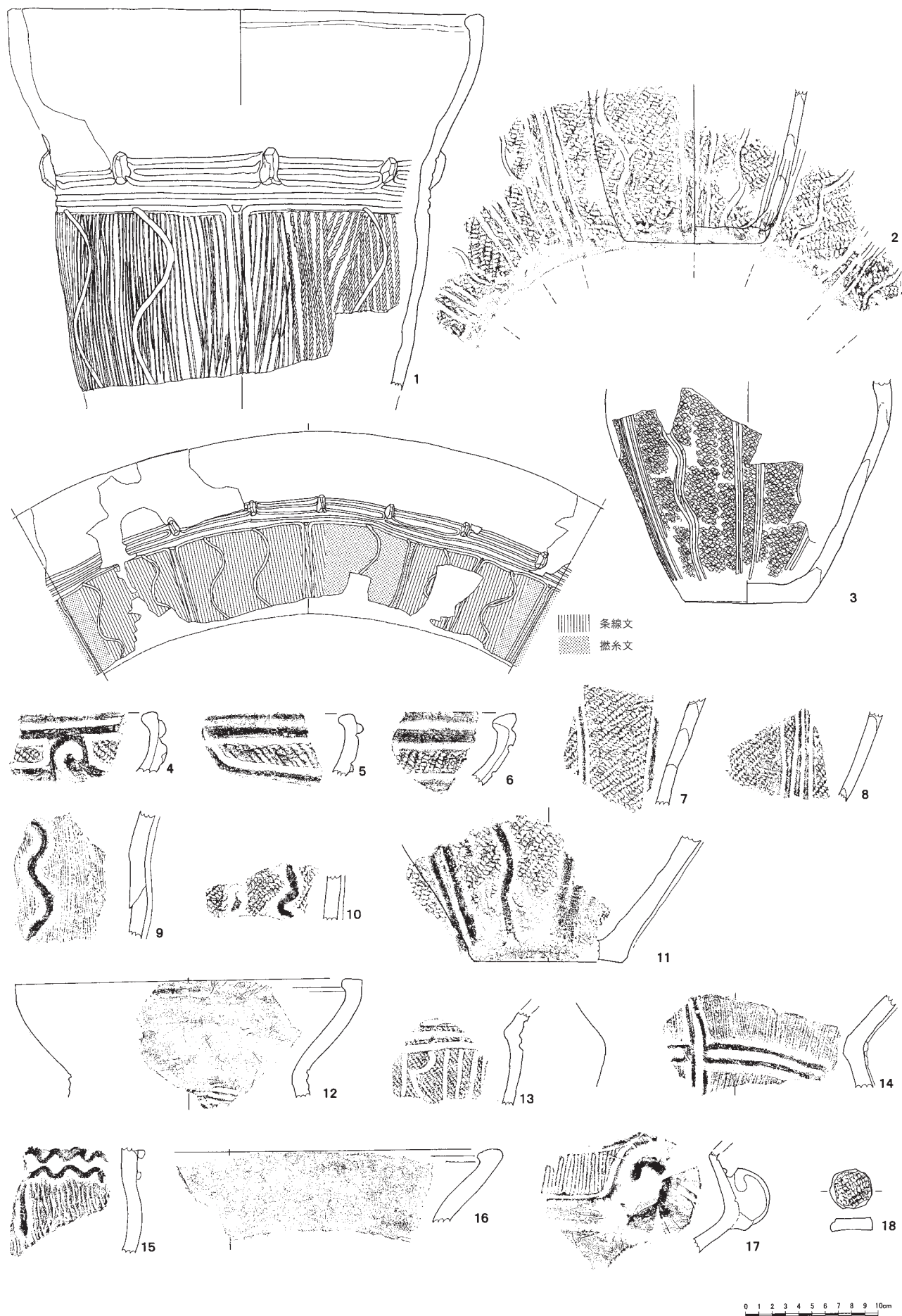
【炉】住居ほぼ中央に位置する。石囲い炉である。石囲いは炉の北側に石はなく、南側に東西64×南北42cmの範囲で半円のみ残存する。砂岩・チャート・片岩が使用されている。炉の範囲は東西70×南北60cm、深さ21cm。炉底部は20×16cmの範囲が被熱のため赤化している。

【柱穴・周溝】ピットは4基検出し、P1、P2、P4、P5が主柱穴となる。柱穴間の距離は柱の中心でP2－P4が1.75m、P4－P1が1.4m、P1－P5が2.0m、P5－P2が1.6mを測る。炉は4柱の中央に位置する。周溝はない。ピットの詳細は第52表のとおりである。

【遺物出土状況・時期】住居全面に散在する。出土遺物から時期は加曽利EⅡ期。

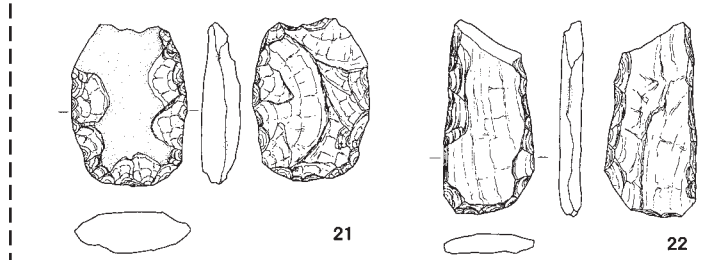
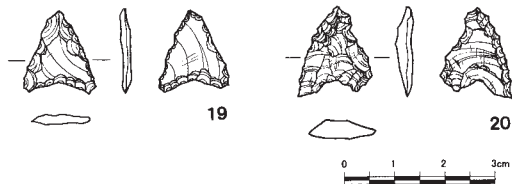
【出土遺物】(第73図23～31)

23は、隆帯を貼付した加曽利E式の口縁部破片。RLの単節。24は、緩い波状口縁で、波頂部に渦巻文

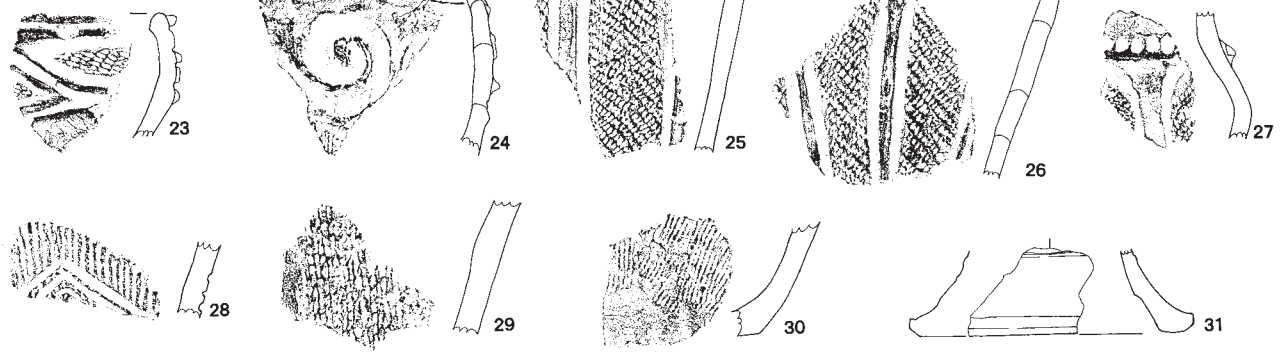


第72図 西ノ原遺跡第150地点184号住居跡出土遺物①(1/4)

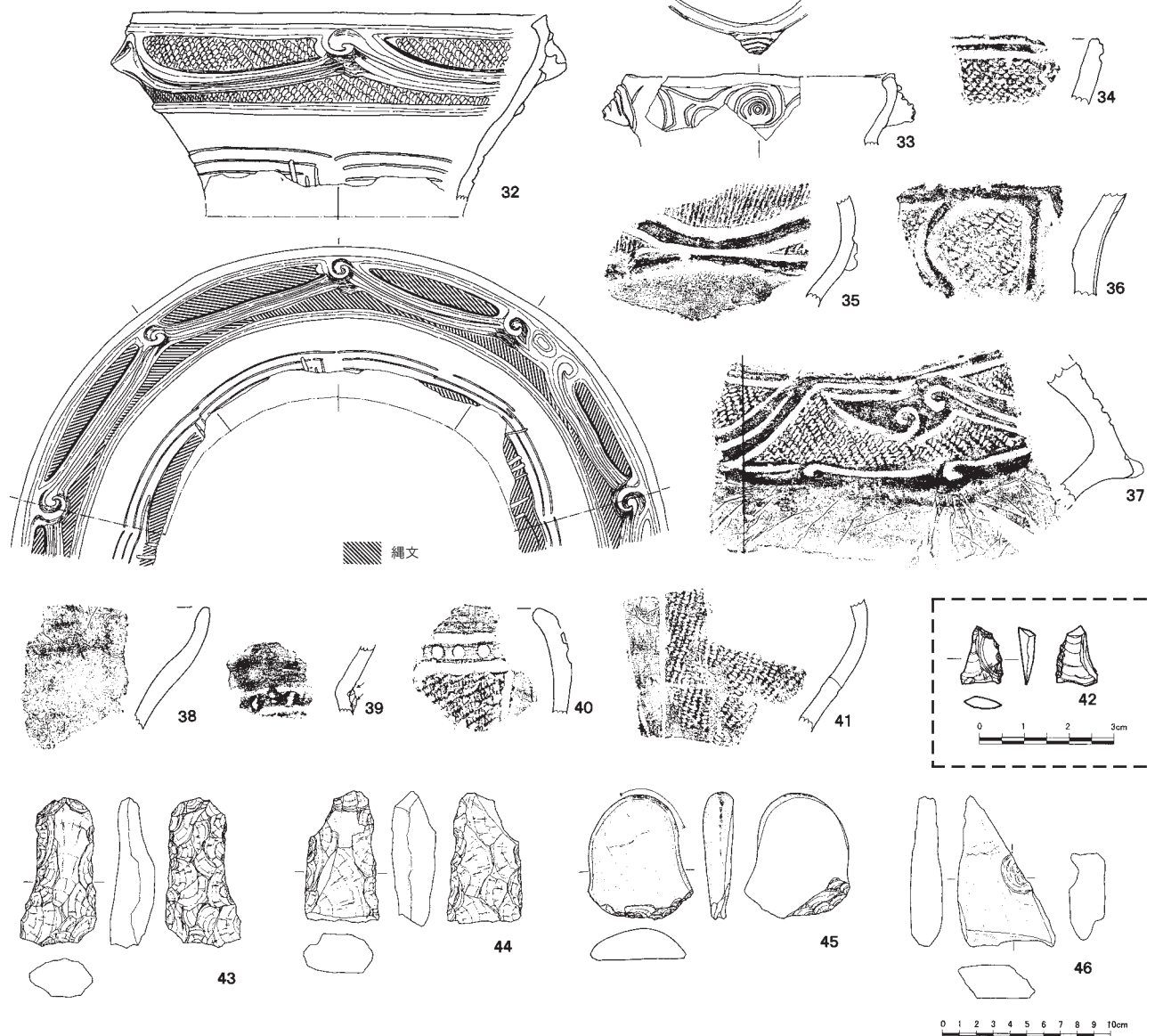
184号住居跡



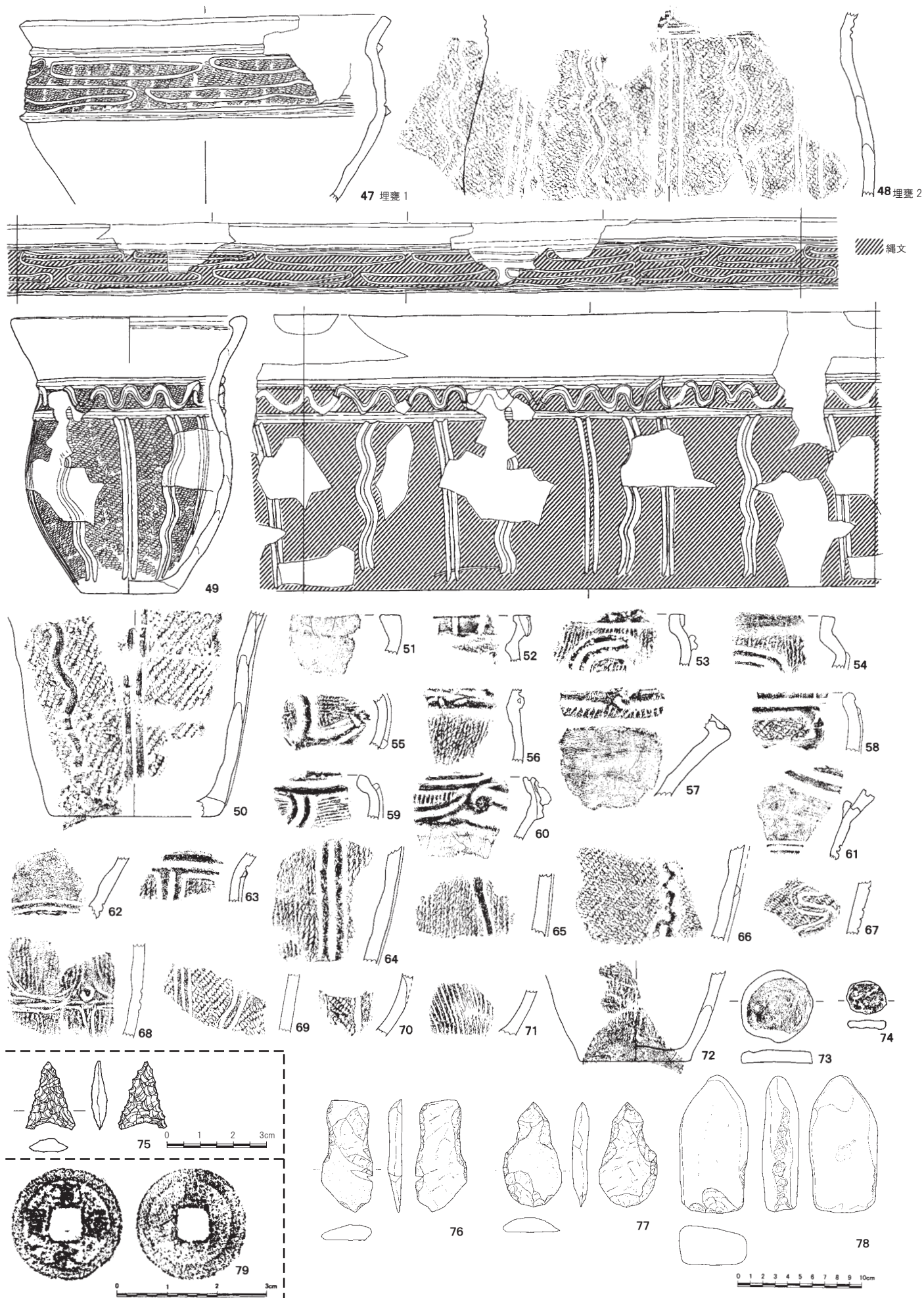
185号住居跡



187号住居跡



第73図 西ノ原遺跡第150地点 184②・185・187号住居跡出土遺物 (1/4・2/3)



第74図 西ノ原遺跡第150地点188号住居跡出土遺物(1/4・2/3・1/1)

の隆帯を貼付し、ナゾリが著しい。25・26は、いずれも地文LRの単節を密に縦位に施文後、縦に2本の懸垂文を施文。その間を磨消したもの。27は有孔罎付き土器の破片。「孔」部はないが、罎の上部に太い点列を巡らし胴部に「U」字状の文様を施文。28は、連弧文土器の破片、地文RIの撚糸文を施文した後、沈線3本の弧線を施文。29は連弧文土器の胴部下半の土器破片。RIの撚糸文。30は、連弧文土器の底部

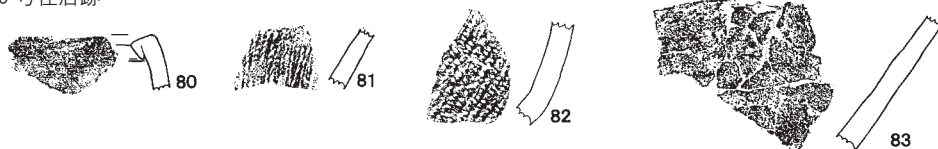
破片。密なLrの撚糸文を施文。31は、脚部破片で。色調茶褐色、研磨が著しい。(笹森健一)

③ 187号住居跡

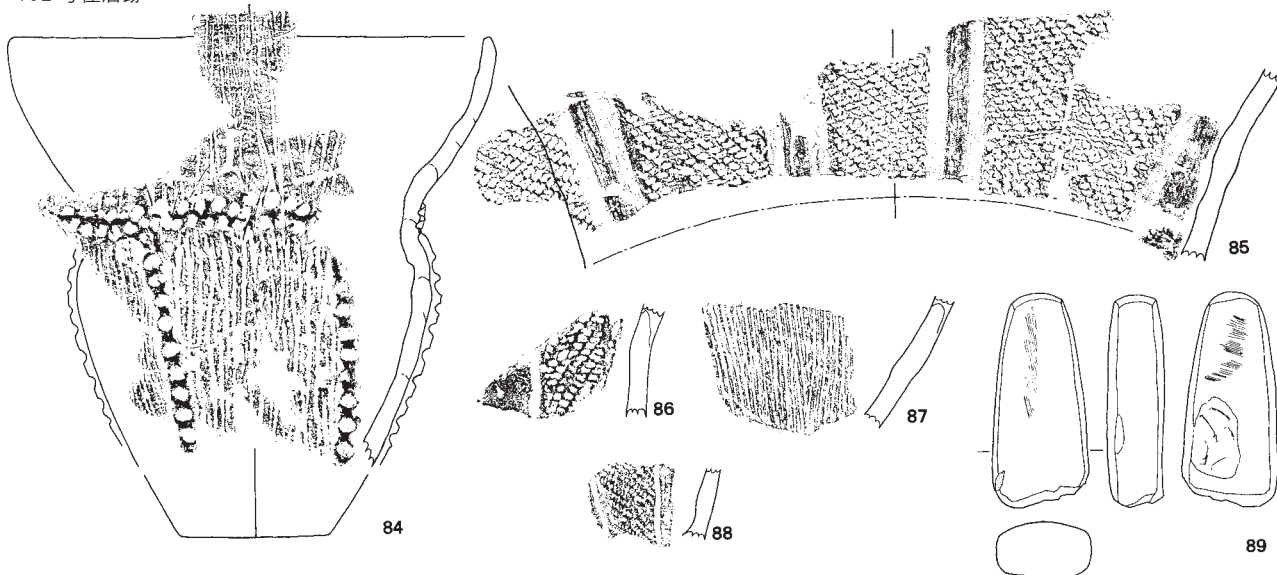
【位置】調査区北西部に位置する。185号住居跡と北側で重複し、土層観察により本住居の方が古い。1.2m西に184号住居跡、2.8m南に188号住居跡、1.0m南東に189号住居跡がある。

【規模・形状】南北方向に長い楕円形を呈し、南北4.8

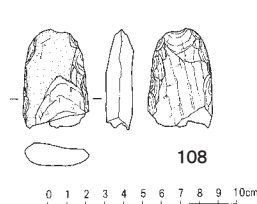
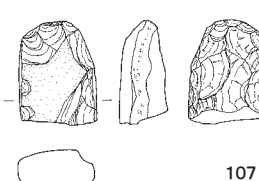
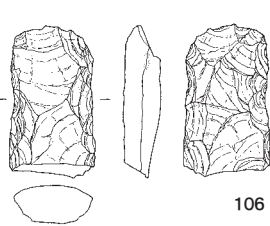
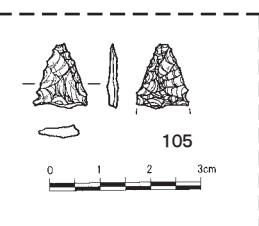
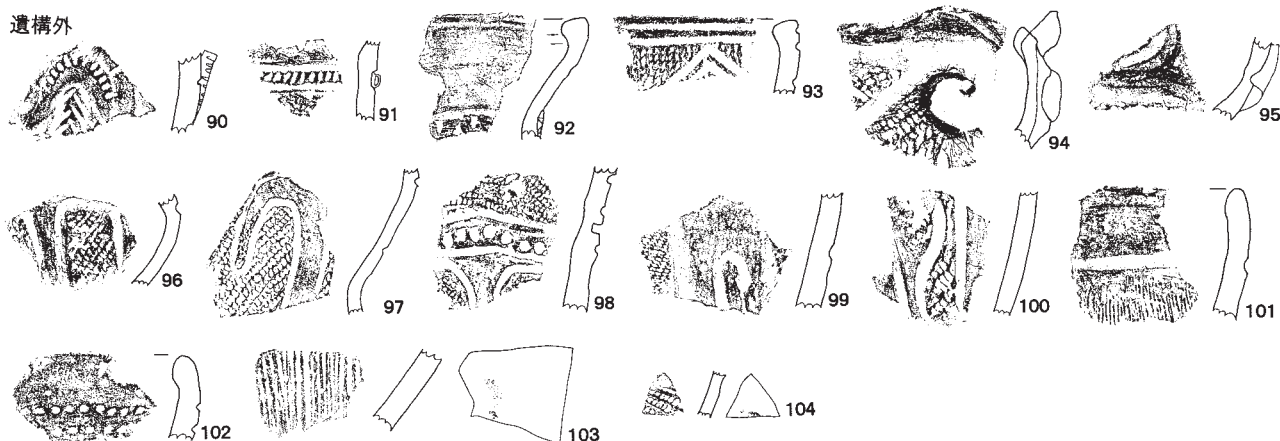
189号住居跡



192号住居跡



遺構外



第75図 西ノ原遺跡第150地点 189・192号住居跡出土遺物(1/4・2/3)

m、東西 4.3 m である。確認面からの深さは 30 cm を測る。壁は緩やかに立ち上がる。187 号住居跡は本住居跡埋没後に覆土を掘り込んで構築されている。

【炉】住居中央北寄りに位置する。石囲い炉である。石囲いは炉の北側は後世の耕作（トレンチャー）により破壊され、石が少ない。石の範囲は南北 65 × 東西 55 cm である。砂岩とチャートが使用されている。炉の範囲は南北 95 × 東西 85 cm、深さ 13 cm。炉底部は 35 × 30 cm の範囲が被熱のため赤化し、凹凸が激しい。

【柱穴・周溝】ピットは 15 基検出し、P1 ～ P4 が主柱穴となる。柱穴間の距離は柱の中心で P1 - P2 が 2.0 m、P2 - P3 が 2.4 m、P3 - P4 が 1.95 m、P1 - P4 が 2.0 m を測る。炉は 4 柱の中央に位置する。周溝は住居跡南側の P10 - P12 間の 1 m のみ確認できた。幅 30 ～ 40 cm、下幅 18 cm、深さ 6 cm である。ピットの詳細は第 53 表のとおりである。

【遺物出土状況・時期】住居中央に集中する。住居跡南東の床面から深鉢口縁が伏せた状態で出土した。出土遺物から時期は加曽利 E I 新期。

【出土遺物】（第 73 図 32 ～ 46）

32 は、加曽利 E 系のキャリパー形土器。頸部以下が欠損。地文は RL の単節。口縁部は全周し口径 24.6 ～ 25.0 cm。右上からの左巻き突出渦巻文と渦巻文を相互に連結した楕円区画を 4 個配置したものであるが、その楕円区画の一つに右下からの左巻渦巻文（突出渦巻文ではない）と楕円区画文を配置している。その結果渦巻文は 5 個となり、5 単位ともとれるが、突出渦巻文が等間隔に配置され、楕円区画の三個が同じで他の一つが楕円区画と渦巻文を加えているものと理解できる。したがって 4 単位文様配置でその一つを異なるように変換したものと捉えたい。胴部は半截竹管工具で横位に引く平行沈線の一つを重複させて 3 本の平行沈線としたもの。その下の胴部には、渦巻文に対応する位置に 3 本単位の懸垂文が施文されているが、痕跡がわずかで懸垂文の配置関係は不明である。

33 は、口径 16 cm の小形のキャリパー形土器。突出部に竹管状工具で同心円状の渦巻文を描いたもの。4 単位の突出部となろう。内面はよく研磨され光沢をおびている。34 は、RL の単節を地文とした土器。口縁直下に一条の沈線が巡らせ、拓本図の右端に蛇行懸垂文が施文されている。おそらく懸垂文のみの土器。35 は、地文は RL の撚糸文。粘土紐を貼付して両側をなぞったもの。内面の研磨が著しい。36 は、地文 RL

の単節。地文の上に 2 本の隆帯で平行直線懸垂文と 1 本隆帯で蛇行懸垂文を施文した土器。胎土に 3 ～ 5 mm ほどの石英粒を多量に含む。37 は浅鉢形土器。口縁部は欠落しているが、大きく「く」の字状に外湾。地文 RL の単節。粘土紐を貼付して、連結した渦巻文と渦巻文に伴う剣先文を施文。粘土紐は 2 mm 程度で非常に薄く、器面に均等の厚さに平坦に押しつけたもの。外面は黄褐色、内面は黒色で良好に研磨され光沢をおびている。38 は、口縁部無文の曽利系の土器。口唇部内面は単純に立ち上がり、内面には鍵状の突起がない。39 も曽利系の土器で頸部破片。直径 4 mm の竹管状工具で上方から交互刺突を施したもの。40 は、0 段 3 条 LR を横位に施文。先端の丸い直径 7 mm の工具で、口縁部に 2 本の沈線と丸い刺突文を施し、胴部に 2 本の沈線の間を磨消した懸垂文を施文。41 は、口縁部が内湾した瓢箪形の土器。地文 RL の単節幅 4 mm の沈線で区画して磨消したもの。

42 ～ 46 は、石器である。詳細については第 58 表を参照。（笹森健一）

④ 188 号住居跡

【位置】調査区西端に位置し、住居の東側一部が調査区域外になる。5.0 m 北に 184 号住居跡、2.8 m 北に 187 号住居跡、2.4 m 東に 189 号住居跡、1.3 m 南に 139 号住居跡がある。

【規模・形状】南北方向に長い楕円形を呈し、南北 5.2 m、東西 4.3 m である。確認面からの深さは 30 cm を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【炉】炉は未検出である。試掘調査時、耕作痕内に礫と焼土粒を多く含む範囲を確認した。本調査では調査区範囲外のため未検出であるが、石囲炉の可能性が高い。

【埋甕】住居南壁際に位置する。平面形は楕円形で中央部に胴部以下を欠損する縄文土器深鉢を正位に埋設する。土器は僅かに北側に傾く。

【柱穴・周溝】ピットは 3 基検出し、P1 ～ P3 いずれも主柱穴となる。周溝は北西部で一部 1 m 程検出した。幅 14 cm、下幅 5 cm、深さ 6 cm である。ピットの詳細は第 54 表のとおりである。

【遺物出土状況・時期】住居全域に出土する。住居跡北端の床面から深鉢が出土した。埋甕から時期は加曽利 E I 期。

【出土遺物】（第 74 図 47 ～ 78）

188 号住居は、2012 年度と 2013 年度に調査した

ものをあわせて報告する。47と48は、今回の2013年度に出土した埋甕で、48が47の外側に入子状になっていた。48の上に新たに47を重ねた結果、入子状になったと推測できよう。47は、浅鉢形土器で底部を欠落。口縁部を一部欠損するが胴部は全周する。口径30cm。文様は外湾する口縁部と胴部の境と胴下部の境に隆帯を貼付、その隆帯に挟まれた頸部(とりあえずの呼称)に、LRの単節を横位に施文し、展開図に示したとおり楕円の枠状と一部に蛇行枠状の文様を沈線で施文したもの。地文のLRは、器面全体に施した後、器面をこすり、痕跡状である。したがって、図化では縄文をはっきりと描いたが、実際の感覚とは異なる。口縁部内側に一部赤彩が施されているようであるがはっきりしない。この土器の文様は、当地域の該期の土器群の中で、型式学的に文様を辿ることができない。

48は、胴部のみ。現存胴部径1/4。地文はRLの単節。上部の括部に横位に3本の沈線。胴部に3本単位の垂直懸垂文と2本単位の蛇行懸垂文からなる。沈線は1本ずつ単独で引いたもの。地文と沈線はともに浅く施文。乾燥が進んだ後に施文したもの。内面は非常に丁寧な斜め縦方向にヘラで磨かれている。

49は、口縁部無文の曾利系の土器、口縁部・胴部が一部欠落するがほぼ完形。口径18.8cm、底径7.8cm、器高22.2cm。胴部の窄まる下半の色調が黄褐色、それ以上口縁部まで暗褐色。頸部括部に2本の隆帯の間に蛇行隆帯を貼付、それ以下に、幅広5mm程度の浅い沈線による2本を対とした蛇行懸垂文と垂直懸垂文を交互に施す。頸部の二本の隆帯と蛇行隆帯が一部剥落した跡に縄文が施文されている。施文順序は、縄文RLを縦回転→隆帯の貼付→沈線の懸垂文。注意したいのは展開図に示したように、①4単位の懸垂文であるが、垂直懸垂文の間隔に差異がある。②蛇行懸垂文は、頸部からの施文当初が、左下がりと右下がりの2種がある。この①と②の関係は次のとおり。

私見では、下記表の不明の蛇行懸垂文は右蛇行である。

第57表 西ノ原遺跡第150地点No.49分析表 (単位cm)

垂直懸垂文の間隔(cm)	広(15)	広(12)	狭(6)	広(13)
蛇行懸垂文の種類	左蛇行	不明	右蛇行	左蛇行

50は、胴部下半で底部の一部が残る、縦に単節RLを施文後に、直線懸垂文を2本単位の隆帯で蛇行懸

垂文を1本の隆帯で貼付けている。隆帯の脇に細い沈線でナゾリを施す。内面は横位に指で擦った雑な整形で凹凸が激しいが、外面は縄文を密に施文など丁寧な整形である。

51～72は覆土より小破片で出土したもの。51～54は口唇部を水平に整形した勝坂式土器。51は口唇部無文の筒型土器。52は外湾した口唇部に縦の沈線を施文した樽形の土器か。53と54は同一個体。地文に撚糸RIを施文し2本単位の隆帯を貼付した勝坂式末期のキャリパー形土器。55・56は、53・54の同類の土器で、56は胴部の破片。57は同じく勝坂式末期の浅鉢形土器で、ヘラで鋭い刻みを施したもの。内面が黒色、外面は黄褐色。内外面の横方向の研磨が著しい。

58～69は、埋甕47・48と同一時期の加曾利EⅠ式の最新のもの。58・59は、キャリパー形土器の口縁部で、58は単節LRを縦に施文し、59はRIの撚糸文を横位に施文。60は、突出渦巻文か2本単位の連結する隆帯を貼付したもので、鋭い工具で縦に沈線を密に加飾している。61は波状口縁の土器で、波頂部に渦巻文が付く土器であろう。口唇部に断面「コ」の字状の沈線を施し、胴部の境に半截竹管による蒲鉾状の平行沈線を横位に施文。胴部以下には懸垂文がつくもの。62・63は、頸部破片。62は蒲鉾状の半截竹管による平行沈線文、63は2本単位による隆帯で頸部と懸垂文が施文され、地文は、RIの撚糸文。64・65も地文RIの撚糸文と隆帯を貼付した胴部破片、64は平行懸垂文隆帯によるもの、65は蛇行懸垂文である。66は地文RLの単節を縦位に施文。蛇行懸垂文はひねりによる貼付で、曾利系の土器と思われる。67は蒲鉾状の半截沈線による蛇行懸垂文。68は地文は撚糸RIを縦に施文し、浅い沈線で大きな連弧文を施文したもの。連弧文土器の間に小さな渦巻き文を付け、最初期の連弧文土器か。69は、沈線間を磨消しによる直線懸垂文、蛇行懸垂文。70は瓢箪形の器形で幅広の磨消しによる胴部下半の土器。加曾利EⅢ式土器。71は、RIの撚糸文を施文した胴部と底部に接合部分、72はRIの撚糸文の底部で、68と同一破片。

73・74は土器片の再利用の土製円盤。73は完形で、円形底部の底を利用したもの。側面は研磨されている。最大径6.0cm。厚さ1.2cm。重量45.5g。74は完形で風化が激しい。最大径3.2×2.5cmの楕円形。厚さ0.7cm。重量7.3g。

75～78 は、石器である。詳細については第 58 表を参照。(笹森健一)

79 は銅製銭貨の「寛永通寶」、新寛永で 1697 年以降の鑄造。孔径 0.7 cm、重さ 160 g である。

⑤ 189 号住居跡

【位置】調査区中央西寄りに位置する。2012 年 2 月の試掘調査と本調査で調査済みの部分に加え西側を検出し、住居跡全体を検出した。1.0 m 北に 187 号住居跡、2.4 m 西に 188 号住居跡、6.5 m 南に 139 号住居跡、2.0 m 東に 190 号住居跡がある。

【規模・形状】平面形態は円形から楕円形を呈する。規模は東西 4.2 × 南北 4.0 m である。確認面からの深さは 26 cm を測る。壁は緩やかに立ち上がる。

【炉】住居中央部に位置する。平面形態は楕円形で北側の底部が被熱し焼土となっている。ピット 12 と重複するがピット 12 が新しい。規模は確認面径 (52) × 56 cm、底径 (44) × 44 cm、深さは 10 cm である。焼土範囲は 29 × 18 cm である。

【柱穴】主柱穴は配置と深さから P 1～5・13 である。P 12 は炉より新しいため本住居跡に伴うものか不明である。ピットの詳細は第 55 表のとおりである。

【遺物出土状況・時期】住居床面から覆土層にかけて土器片や石器が出土するが、復元可能なものはない。住居跡の時期は加曽利 E Ⅲ期である。

【出土遺物】(第 75 図 80～83)

出土遺物は少量で、風化が激しく、住居の所属時期とは関係ないものと思われる。80 は口唇部を折返して平坦に整形した、口縁部が無文の樽形をした勝坂式土器。81 は深めの RL の擦糸文が施文された加曽利 E

式期の土器。82 は内面黒色で横方向に研磨された浅鉢形土器、器面に RL の単節を密に施文。83 は、内外面が暗褐色で、良好に研磨された浅鉢形土器。

(笹森健一)

⑥ 倒木痕

当初 186 号住居跡として調査したが、調査途中で倒木痕であることが判明した。

【遺構外出土遺物】(第 75 図 90～108)

遺構外からはおびただしい土器破片が出土している。いずれも縄文中期の勝坂式から加曽利 E Ⅲ式土器である。ここでは頁数の関係で主なものを掲載した。90・91 は、隆帯に刻みを施す勝坂Ⅲ式の土器、いずれも円筒形の土器。92 は、口縁部が無文で頸部に交互刺突を入れた曾利系の土器。93 は、地文に擦糸文を施した連弧文の土器。

94～102 は加曽利 E Ⅲ式土器。94・95 は口縁部に渦巻き文の土器。94 は波状口縁で波頂部に大きくナゾリによる渦巻文を施している。地文は LR の単節。95 もその類。96・97 は、胴中央に強い括れの土器、98 は U 字状の文様の頸部に緻突文を施文したもの。99・100 も懸垂文の間に蕨手状の懸垂文を施文したもの。101 は口縁部に一条の沈線を境に下部に条線を施文。102 は無文の口縁部に、2 段の円形の刺突を口唇部にそって施文したもので、称名寺期になるのかもしれない。103 は、浅鉢形土器で、外面は条線で内面は良く研磨され、赤彩が施された痕跡がある。104 も赤彩のある破片。

105～108 は、石器である。詳細については第 58 表を参照。(笹森健一)

第 58 表 西ノ原遺跡第 150 地点出土石器観察表 (単位 cm)

図版番号・No.	遺構名・注記No.	種別/器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材/推定生産地	推定年代	残存/備考
第73図19	184号住居No.50	石鏃	1.7	1.1	0.2	0.41	チャート	縄文時代	完形
第73図20	184号住居No.53	石鏃	(1.8)	1.2	0.3	0.59	黒曜石	縄文時代	一部欠損
第73図21	184号住居No.103	石鏃	(8.6)	6.2	2.0	137.69	砂岩	縄文時代	一部欠損
第73図22	184号住居No.56	打製石斧	(10.3)	(4.8)	(1.3)	90.71	輝緑岩	縄文時代	一部欠損
第73図42	187号住居H3	石鏃未製品か?	(1.3)	(0.8)	(0.2)	0.40	黒曜石	縄文時代	未製品
第73図43	187号住居C区1	打製石斧	8.9	3.3	2.3	88.95	ホルンフェルス	縄文時代	完形
第73図44	187号住居No.89	打製石斧	(7.9)	4.1	2.3	101.87	砂岩	縄文時代	下部欠損
第73図45	187号住居No.111	打製石斧	7.2	6.3	1.8	101.02	砂岩	縄文時代	完形
第73図46	187号住居No.78	凹石	(8.9)	(4.0)	1.8	112.37	輝緑凝灰岩	縄文時代	一部残存
第74図75	188号住居No.103	打製石斧	(2.1)	(1.4)	(0.5)	0.89	黒曜石	縄文時代	一部欠損
第74図76	188号住居No.102	打製石斧	(8.9)	4.0	1.2	53.92	細粒砂岩	縄文時代	一部欠損
第74図77	188号住居No.62	打製石斧	8.4	4.7	1.1	51.35	砂岩	縄文時代	完形
第74図78	188号住居H4	敲石・磨石	11.0	5.5	2.8	310.82	砂岩	縄文時代	完形
第75図89	192号住居No.1	敲石・磨石	11.3	5.0	3.0	368.04	凝灰岩	縄文時代	完形
第75図105	遺構外H12	石鏃	(1.3)	1.1	0.2	0.28	黒曜石	縄文時代	下部欠損
第75図106	遺構外H4	打製石斧	(8.0)	4.1	1.9	92.16	ホルンフェルス	縄文時代	下部欠損
第75図107	遺構外H3	打製石斧	(5.5)	4.1	2.4	82.03	砂岩	縄文時代	下部欠損
第75図108	遺構外H2	打製石斧	(5.2)	3.4	1.4	39.22	砂岩	縄文時代	下部欠損



西ノ原遺跡第 150 地点 184 号住居跡全景



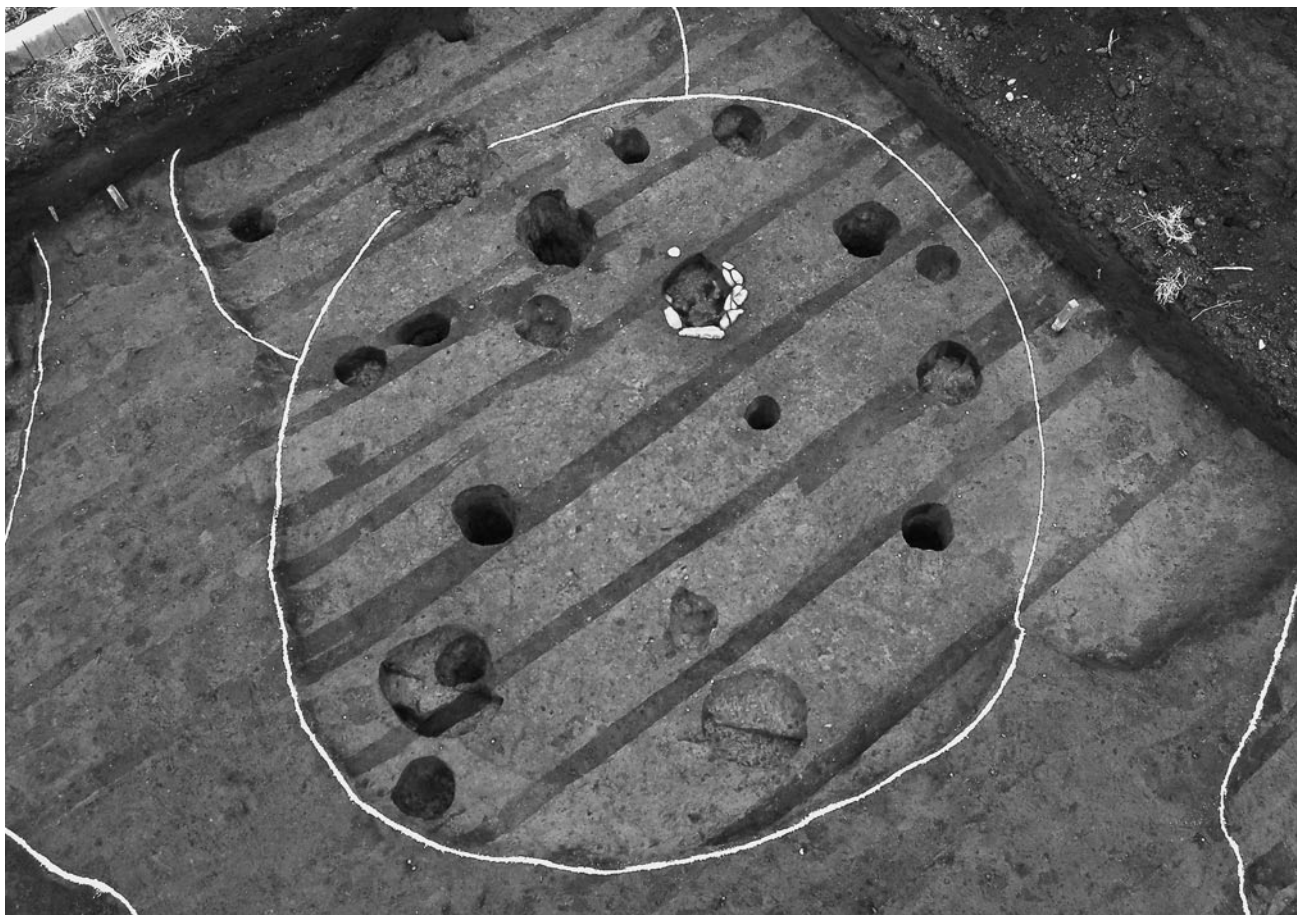
西ノ原遺跡第 150 地点 184 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 150 地点 185 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 150 地点 185 号住居跡全景



西ノ原遺跡第 150 地点 187 号住居跡全景



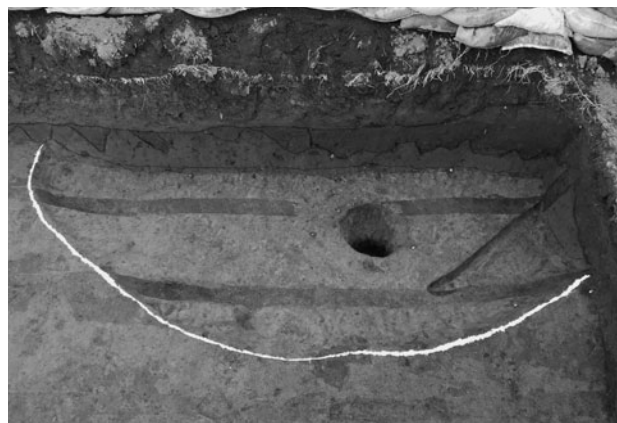
西ノ原遺跡第 150 地点 187 号住居跡



西ノ原遺跡第 150 地点 187 号住居跡



西ノ原遺跡第 150 地点 187 号住居跡



西ノ原遺跡第 150 地点 188 号住居跡全景



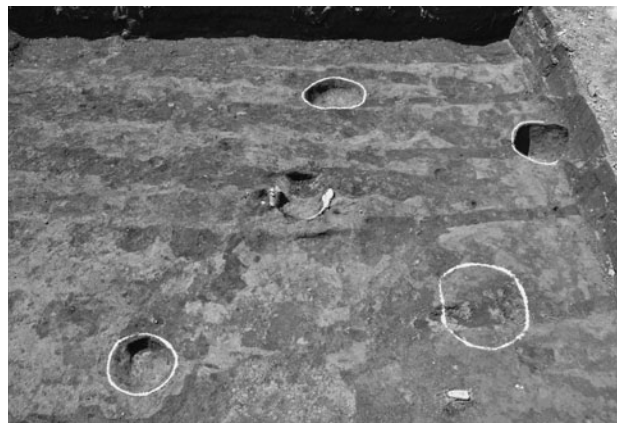
西ノ原遺跡第 150 地点 188 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 150 地点 188 号住居跡遺物出土状況



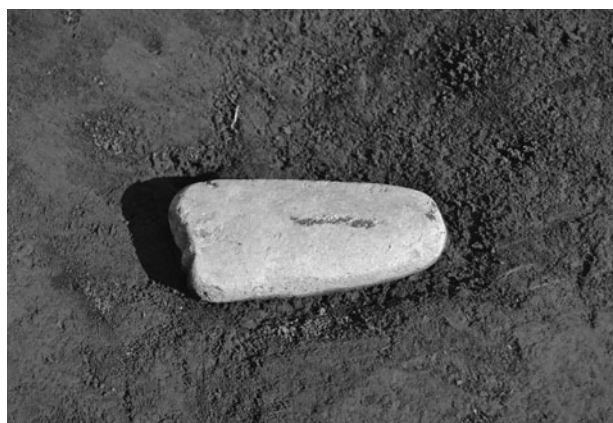
西ノ原遺跡第 150 地点 189 号住居跡全景



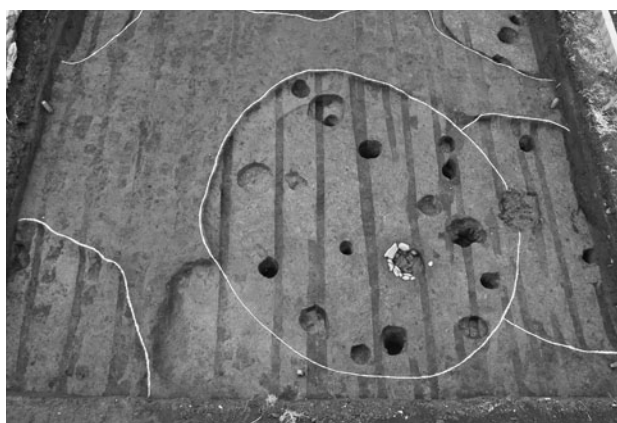
西ノ原遺跡第 150 地点 192 号住居跡



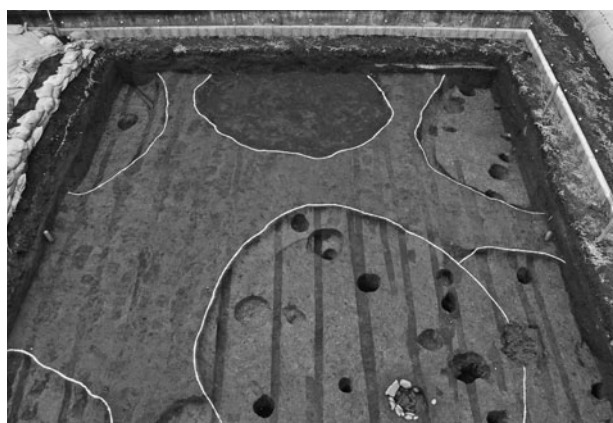
西ノ原遺跡第 150 地点 192 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 150 地点 192 号住居跡遺物出土状況



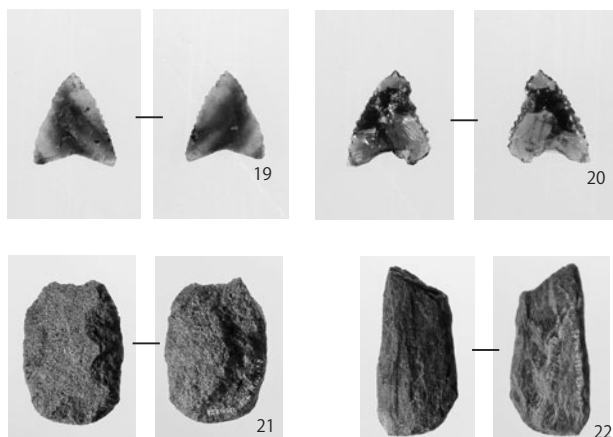
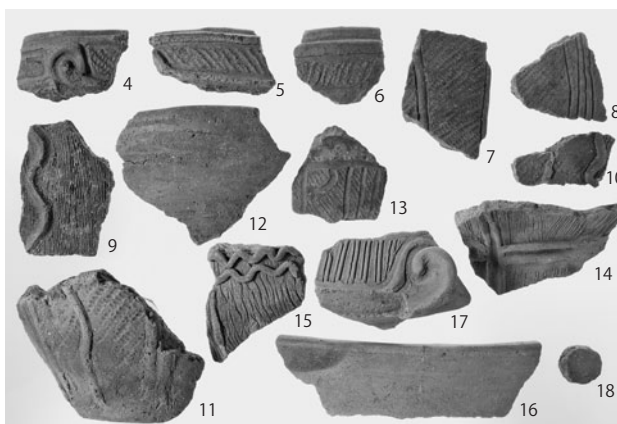
西ノ原遺跡第 150 地点全景



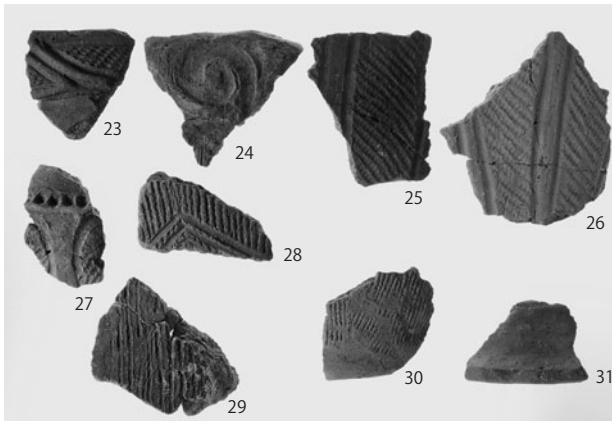
西ノ原遺跡第 150 地点全景



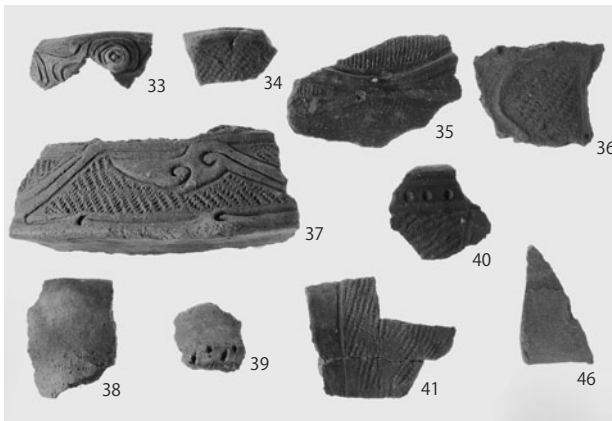
西ノ原遺跡第 150 地点調査風景



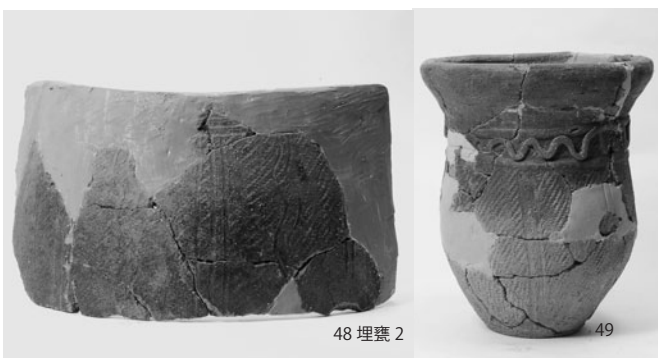
西ノ原遺跡第 150 地点 184 号住居跡出土遺物 No. 1 ~ 22



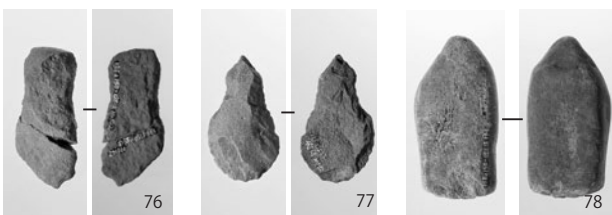
185 号住居跡出土遺物No. 23 ~ 31



187 号住居跡出土遺物No. 33 ~ 41・46



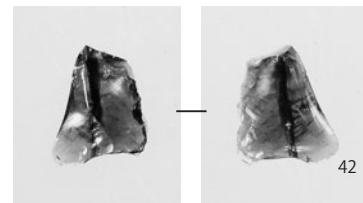
188 号住居跡出土遺物No. 47 ~ 49



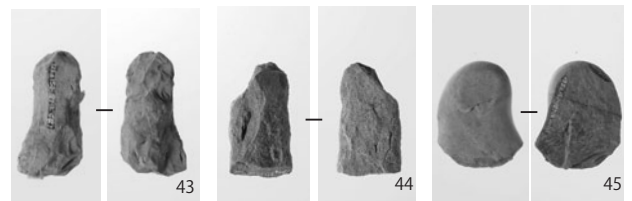
188 号住居跡出土遺物No. 76 ~ 78



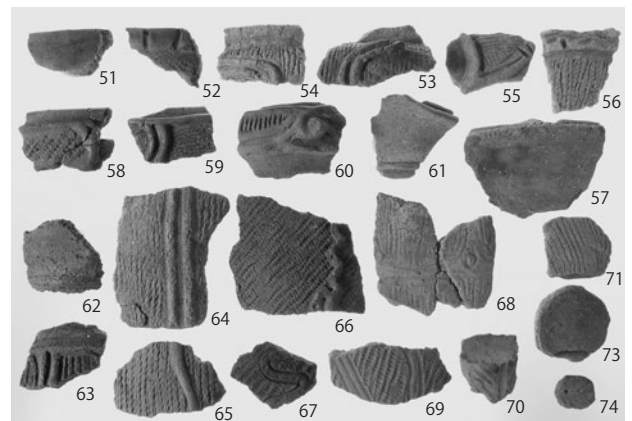
187 号住居跡出土遺物No. 32



187 号住居跡出土遺物No. 42



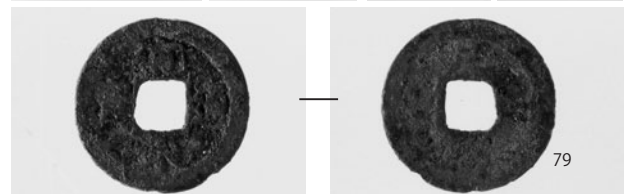
188 号住居跡出土遺物No. 43 ~ 45



188 号住居跡出土遺物No. 51 ~ 74

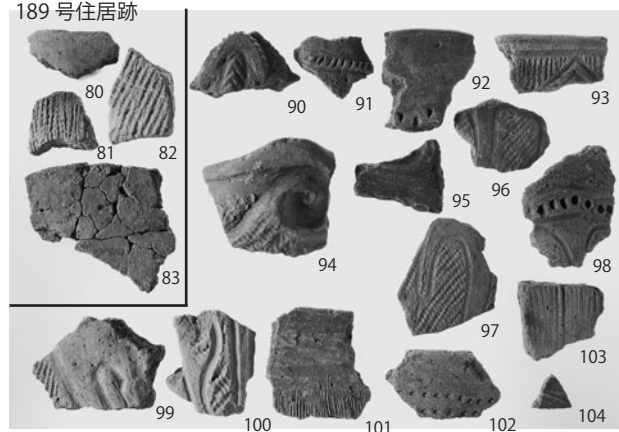


188 号住居跡出土遺物No. 50・72・75・79

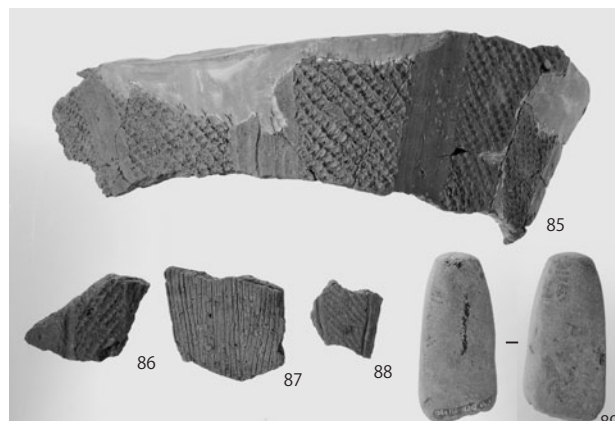




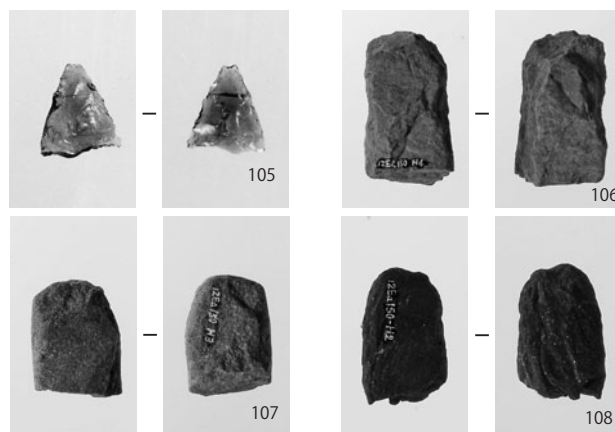
西ノ原遺跡第 150 地点 192 号住居跡出土遺物 No.84
189 号住居跡



西ノ原遺跡第 150 地点 189 号住居跡・遺構外出土遺物



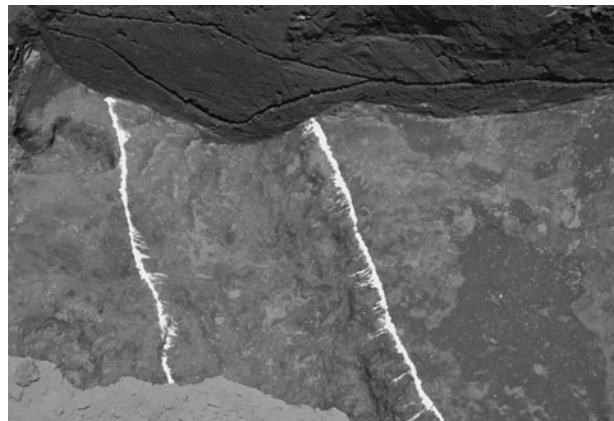
西ノ原遺跡第 150 地点 192 号住居跡出土遺物 No.85 ～ 89



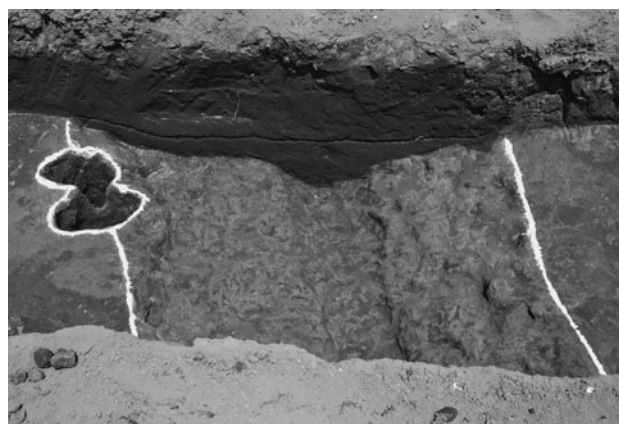
西ノ原遺跡第 150 地点遺構外出土遺物



西ノ原遺跡第 153 地点全景



西ノ原遺跡第 153 地点溝 1



西ノ原遺跡第 153 地点溝 2



西ノ原遺跡第 153 地点調査風景